外国につながる子どもへの教育支援プロジェクト

# 外国につながる子どもの日本語支援・母語支援を通して、多文化共生の社会を目指す


プロジェクトメンバー

○長友 文子（国際連携部門）
有馬 専至（Kii-Plus）
野村 美雪（Kii-Plus）

○はプロジェクト代表

共創相手

和歌山市教育委員会
和歌山市国際交流協会


## プロジェクトの背景

新型コロナウイルスパンデミックによって、国際的な人の移動が停滞しているが、グローバル化の趨勢そのものはとどまることがない。現在、多くの外国人が、各国から日本に来て暮らしている。それに伴い、親と一緒に日本で生活する外国籍の子どもも少なくない。また、日本国籍でも、様々な理由で、日本語を母語としない子どもたちもいる。それら「外国につながる子どもたち」への教育支援が課題として浮上している。

第一は、日本語が不自由な子どもたちへの日本語支援という課題である。しかしまた、母語支援も、需要な課題である。日本語の習得によって母語を忘れてゆくと、家族とのコミュニケーション問題、将来の就職問題、さらにアイデンティティ危機など、深刻な問題に直面するからである。

和歌山でも、数は少ないが、それらの教育支援が必要な「外国につながる子どもたち」がいる。しかし、人数が少ないこともあって、上記のような教育支援を行う十分な体制ができていないという背景がある。

## プロジェクトの目的

このプロジェクトは、和歌山大学の地域貢献の一環として、日本人学生と留学生が、「外国につながる子どもたち」の日本語支援・母語支援の活動を行うというものである。

和歌山大学は県内唯一の国立大学で、教育学部があり、また、近年、各国からの留学生が増加している。将来教員となる日本人学生と留学生が協力すれば、外国につながる子どもたちへの日本語支援、母語交流に貢献することができる。さらに、支援を通して、日本語と母語に挟まれた子どもたちのアイデンティティ形成や、日本人の子どもたちの多文化共生意識の醸成にも関わってゆくことができるだろう。

さらにまた、支援する学生たちの側でも、子どもへの支援活動を通して、多くの事を「学び、気づく」ことができるだろう。

それだけではない。本プロジェクトにおける「外国につながる子どもたち」の支援が目指す最終ゴールは、和歌山という地域における「多文化共生社会の実現」である。そのために、初年度から、8つの目標を立てている。

## プロジェクトの活動内容

昨年に続き、今回も次の2つの活動を行った。

（1）外国につながる子どもと留学生の交流

和歌山市教育委員会との連携による活動として、昨年同様、市教委の担当者が市内の小学校について、当該児童がいる学校とその児童数を調査してくれた。その上で、受け入れ学校の希望も勘案して、今年度は1

校1名の児童を支援することになった。まずPTの担当者と市教委の担当者とで事前打ち合わせを数回行い、コロナの波がひとまず収まった11月から、子どもと留学生の1対1の交流ではなく、留学生が教室の中に入って行うことにした。以後、1月まで6回、対面での交流活動を行った。

支援活動当日は、授業や朝の会、体育の時間、図書の時間など、授業中に留学生が教室に入り、当該の子どものそばにいて、必要に応じて母語で話をした。回が重なると、休み時間には、留学生と子どもの周りに、日本人の子どもも集まるようになった。留学生は、子どもと母語で話すだけでなく、子どもの母語で歌を歌ったり、日本と母国の文化比較などをクラス全員の前で話したりした。これは、担任の先生の理解があったからできたことで、日本の子どもたちの異文化理解にも大きな意味があった。

（2）動画と冊子作成

どこの国の学校にも、独特の文化や習慣がある。日本に来たばかりの子どもは、これまで自分が学んできた学校とは全く異なる文化や習慣をもつ学校に入って、学び生活してゆくことになる。

そのようなカルチャーショックは、日本の学校に入る前に、日本の学校の文化や習慣を知ることによって、少し軽くなるだろう。そこで、日本の学校の文化や習慣が分かる動画を作成した。それと同時に、動画の内容と同じものを、多言語で説明した冊子を作製した。

実際の作業としては、先ず、日本人学生3名と留学生3名で、それぞれの国の学校の習慣や文化の相違点や類似点について話し合い、それをまとめた。次に、学校に行き、日本の学校に独特な習慣などを中心に、動画取材を行った。取材までに、協力校の校長先生と数回打ち合わせを行い、取材当日は、子どもたちの一日を、登校時から下校時まで密着取材させていただいた。

動画には、学生たちの独自の視点が入っており、ナレーションも学生たちが担当した。また、冊子では、その内容が、やさしい日本語、中国語、ベトナム語、英語で説明されている。

動画は、ユーチューブで配信し、冊子は学校に配布し、また、下記のKii-PlusのHPにアップしている。

冊子

動画

https://youtu.be/Tm6_x26ZaGE

日本の小学校の１日

## プロジェクトの成果

２年目となるプロジェクトは、これまでとは異なる視点で留学生と子どもの交流の形を見出すことができた。これに加え、学校に動画取材をしたことも、活動の成果を上げた。

外国につながる子どもたちに対して、私たちが、「問題を抱えた子ども」、「日本語ができない子ども」といった特別扱いで捉えていては、多文化共生社会から遠ざかってゆく。今回、子どもの母語を大切に考えている学校長や担任の先生との話し合いから、先生方の子どもたちに対する思いを聞くことができた。外国につながる子どもたちを、「特別扱い」しないということは、日本人の子どもたちにとっても、大変大事なことである。子どもたちは、互いのことばと文化を理解しあうことで、育った言葉や文化が違っても「普通の」友だちとして交流することができる。その意味で、今回のプロジェクトは、多文化共生を担う子どもたちの教育の一歩となった。

このプロジェクトの存在を多くの学校や関係者に知ってもらうことが私たちの目的の一つでもある。

プロジェクト最終年となる来年に向けて、新たな活動を展開してゆきたい。

プロジェクトに関するお問い合わせ
価値共創オフィス
E-mail : region@ml.wakayama-u.ac.jp
URL : http://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/projects/foreignchildren/index.html